

Fukuoka City Public Library Movie Hall

Ciné-là

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

シネラ・ニュース
January 2025

fiaf

国際フィルム・アーカイヴ連盟=FIAFは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAFの会員です。

1

企画上映

暮らしの思想

佐藤真 RETROSPECTIVE

まひるのほし
©1998 「まひるのほし」製作委員会

アントニー・ガウディー

企画上映

収蔵

ドキュメンタリー映画選

トウルンバ祭り

通年上映

アーカイヴ 発見

暮らしの思想 佐藤真 RETROSPECTIVE

◎観覧料:一般=1,400円/学生(大学生・高校生・中学生・小学生)および各種割引=700円

※以下の方が割引となります(要証明書・会員証原本提示)

①福岡市在住の65歳以上の方/②「わたすクラブ」会員/③障がい者の方および介護者の方1名

収蔵ドキュメンタリー映画選

アーカイヴ発見

◎観覧料:大人=500円/大学生・高校生=400円/中学生・小学生=300円

福岡市在住の65歳以上の方・「わたすクラブ」会員=250円(要証明書・会員証原本提示)

障がい者の方および介護者の方1名=無料(要証明書提示)

◎定員(242席、車椅子席4席)・各回入替制/当日券のみ・各回上映の1時間前から販売(上映開始30分後まで)

暮らしの思想

佐藤真 RETROSPECTIVE

17年前、49歳で突然この世を去った稀代のドキュメンタリー作家 佐藤真。アート、パレスチナ、記憶、様々なテーマを通じて佐藤が見つめた彼方とは…。映画史に燦然と輝く傑作の数々がレストアでいま蘇る。

会期：1月8日(水)～19日(日) ※休館日・休映日除く
配給：ALFAZBET、パラブラ(「おてんとさまがほしい」を除く)

◎バリアフリー上映について：「まひるのほし」「花子」「エドワード・サイド OUT OF PLACE」は日本語字幕付きで上映します。また音声ガイドはUDCastMOVIEアプリに対応しています。詳しくはUDCastのホームページをご覧ください。

11 土 13 月・祝 17 金 18 土
11:00 14:00 11:00 14:00

まひるのほし

Artists in Wonderland



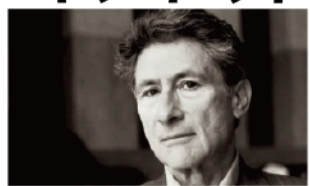
©1998 「まひるのほし」製作委員会

監督：佐藤真 撮影：大津幸四郎 撮影監督：田島征三 録音：久保田幸雄
1998 / 日本(「まひるのほし」製作委員会) / 93分 / カラー / DCP(4K修復)上映

8 水 14:00
11 土 14:00
19 日 14:00
1/19(日) (14:00-14:30予定)
中東情勢と映画の背景について聞く・上映前トークイベント

登壇：中野真紀子(なかのまきこ)
「デモクラシー・ナウ!」ジャパン代表、翻訳家。「エドワード・サイド OUT OF PLACE」の字幕翻訳を担当
聞き手：清田麻衣子(きよた まいこ)

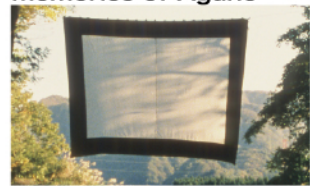
エドワード・サイド OUT OF PLACE



©2005 シグロ

監督：佐藤真 撮影：大津幸四郎、栗原朗、佐藤真 整音：弦巻裕 編集：秦岳志
2005 / 日本(シグロ) / 137分 / カラー / DCP(4K修復)上映

10 金 14:00 13 月・祝 11:00 16 木 14:00
阿賀の記憶
Memories of Agano



©2004 カサマフィルム

監督：佐藤真 撮影：小林 茂 録音：菊池信之 音楽：経麻朗 編集：秦岳志
2004 / 日本(カサマフィルム) / 55分 / カラー / DCP上映

11 土 17:00 特別上映 「おてんとさまがほしい」+上映後トークイベント(17:50～18:50予定)

おてんとさまがほしい



写真提供：貞末麻哉子

フリーの映画照明技師である渡辺生(わたなべ・しょう)さんは、半世紀以上を映画界で生きてきた。1990年2月、妻・トミ子さんの骨折による入院をきっかけに、渡辺さんは東京の仕事場を引き払い、生活の基盤を日立市に移す。そして翌年トミ子さんはアルツハイマー病と診断される。その妻に、夫である渡辺さんがカメラを向けた。看病の日々を通して知り合った周囲の人々の姿とともに、渡辺さんはトミ子さんの日常を撮り続けていく。撮影されたフィルムは佐藤真氏によって構成・編集された。
製作・撮影・照明：渡辺生 構成・編集：佐藤真 プロデューサー 貞末麻哉子
1994 / 日本(おてんとさまがほしい制作委員会) / 47分 / カラー / 16ミリフィルム上映

小森はるか(こもり・はるか)

映像作家。1989年静岡県生まれ。瀬尾夏美とのアートユニットやNOOK(のおく)のメンバーとしても活動。2011年以降、岩手県陸前高田市や東北各地で、人々の語りと風景の記録から作品制作を続ける。現在は新潟在住。代表作に「息の跡」(2016)、「空に聞く」(2018)。「小森はるか+瀬尾夏美として2014年に「波のした、土のうえ」を制作、2019年に発表した「二重のまち/交代地のうたを編む」は、シェフィールド国際ドキュメンタリー映画祭コンペティション部門特別賞、令和3年度文化庁映画賞文化記録映画優秀賞を受賞。最新公開作品に「ラジオ下神白」(2023)。



飯岡幸子(いいおか・ゆきこ)

1976年福岡県宗像市生まれ。映画美学学校ドキュメンタリーコースにて佐藤真氏に師事し、映像制作を始める。監督作に「オイディプス王/ク・ナウカ」(2000)、「ヒノサト」(2002)。撮影を担当した作品に、森井勇佑監督「ルート29」(2024)、清原雅監督「すべての夜を思いだす」(2022)、濱口竜介監督「偶然と想像」(2021)など。2024年には井戸沼紀美と共同で特集上映「日々をつなぐ」を企画、東京、大阪、京都で上映活動を行った。



清田麻衣子(きよた・まいこ)

1977年生まれ。編集プロダクション、出版社勤務を経て、2012年里山社設立。2016年、佐藤真に惹きつけられた32人の書き下ろし原稿とインタビュー、佐藤真の単行本未収録原稿を含む傑作選を収録した「日常と不在を見つめて～ドキュメンタリー映画作家 佐藤真の哲学～」を出版。佐藤真の教え子らとともに、刊行記念特集上映会「佐藤真の不在を見つめて」を全国で上映。2021年、「佐藤真の不在との対話 一見えない世界を撮ろうとしたドキュメンタリー映画作家のこと」を刊行した。2022年より福岡市在住。



佐藤 真(さとうまこと)

1957年青森県生まれ。東京大学文学部哲学科卒業。大学在学中より水俣病患者の支援活動に関わる。1981年「無事なる海」(香取直孝監督)に助監督として参加。1989年から新潟県阿賀野川流域の民家に住み込みながら撮影を始め、1992年「阿賀に生きる」を完成。ニヨン国際ドキュメンタリー映画祭銀賞など、国内外で高い評価を受ける。以降「まひるのほし」(1998)、「SELF AND OTHERS」(2000)、「花子」(2001)、「阿賀の記憶」(2004)、「エドワード・サイド OUT OF PLACE」(2005)など映画監督として数々の作品を発表しながらテレビ作品の編集・構成の他、映画論の執筆など多方面に活躍。京都造形芸術大学教授、映画美学学校主任教師として後進の指導にも尽力した。2007年9月4日逝去。享年49。



©村井勇

9 木 11:00 12 日 11:00 17 金 14:00 19 日 11:00

花子

Hanako



©2001 シグロ

監督：佐藤真 撮影：大津幸四郎 音楽：忌野清志郎/ラファイタフィー 録音：弦巻裕 編集：秦岳志
2001 / 日本(シグロ) / 60分 / カラー / DCP(4K修復)上映

10 金 11:00 12 日 14:00 16 木 11:00

阿賀に生きる

Living on the River Agano



©1992 阿賀に生きる製作委員会

監督：佐藤真 撮影：小林 茂 音楽：経麻朗 録音：鈴木彰二
1992 / 日本(阿賀に生きる製作委員会) / 115分 / カラー / DCP上映

9 木 14:00 18 土 11:00
SELF AND OTHERS
Self and Others



©牛腸茂雄

監督：佐藤真 撮影：田村正毅 録音：菊池信之 音楽：経麻朗 声：西島秀俊
2000年 / 日本(ユロススペース) / 53分 / カラー / DCP上映

わずか3冊の写真集を自費出版し亡くなった写真家・牛腸茂雄。「SELF AND OTHERS」は彼の2冊目の写真集のタイトルでもある。牛腸のゆかりの地を訪れ、残された手紙や写真をコラージュしながら牛腸の写真の魅力に迫っていく。ドキュメンタリー映画の新たなイメージを提示する衝撃の映画。孤独な命が全世界へ向けて声を発しているような生々しさが胸を打つ。

ドキュメンタリー映画選

会期:1月22日(水)
～26日(日)

◎すべて福岡市総合図書館
収蔵作品

日本のドキュメンタリー映画史に残る傑作に加え、あまり上映される機会の少ない文化映画もセレクトして上映します。

23 木 26 日
14:00 14:00

ニッポン国古屋敷村



小川紳介監督をはじめとする小川プロは、1974年から山形県牧野村で農業をしながら映画を作り始める。映画の前半は稲作についての科学映画のように展開し、後半は蔵王山系にあるわずか8戸の過疎の村・古屋敷村に住む人々の記憶を記録する。ひとつの山村を舞台にした壮大な歴史絵巻が広げられる。小川紳介監督とスタッフが自ら農業を営みながら作った傑作。

監督:小川紳介 16ミリフィルム上映
1982/日本(小川プロダクション)/212分(途中5分間の休憩あり)/カラー

22 水 26 日
14:00 11:00

絵図に偲ぶ江戸の暮らし



安政時代の江戸、本郷通りに店を構えた伊勢屋吉左衛門が遺した2巻の絵図を丹念に辿る。当時のいきいきとした江戸庶民の生活の喜びを見つめていくドキュメンタリー。1978年度「キネマ旬報」文化映画ベスト・テン第一位。時枝俊江は1951年に岩波映画に入社し、幼児教育、地域文化財、歌舞伎などを題材とした数多くの作品を発表した。

監督:時枝俊江 16ミリフィルム上映
1978/日本(岩波映画)/33分/カラー

24 金 25 土
11:00 14:00

教室の子供たち



下町の小学校を舞台に二年生の教室現場をカメラに入れ、児童の自然な行動を記録した。勉強する子どもたちの姿を記録する方法としての隠し撮りをせず、子どもたちが教室に据えられたカメラやスタッフを意識しなくなるまで、十分な時間をかけて撮り上げた。文部省の委嘱による教員向けの映画ながら、いきいきとした子どもたちの姿を捉える。

監督:羽仁進 16ミリフィルム上映
1954/日本(岩波映画)/29分/白黒

23 木 24 金 25 土
11:00 14:00 11:00

アントニー・ガウディー



スペインの世界的建築家アントニー・ガウディー(1852-1926)の作品の魅力に迫ったドキュメンタリー映画。ガウディーの故郷を訪ね、スペイン、バルセロナにあるサグラダ・ファミリアやグエル公園等の建築と街の風景を見事に描いていく。監督は「砂の女」(1964)など、安部公房原作・脚本作品を複数手掛けた勅使河原宏。

監督:勅使河原宏 音楽:武満徹
35ミリフィルム上映
1984/日本(勅使河原プロダクション)/72分/カラー

歌舞伎の立廻り



歌舞伎研修生向けの教材シリーズとして、見せ場となる「立廻り」について解説する。「立廻りの神様」と称された坂東八重之助による指導や演出プロセスなどを記録している。監督の藤原智子は、1960年の監督デビュー後、子育てを経て、47歳で監督業に復帰した。能、歌舞伎等の記録映画を多数監督し文部大臣賞、芸術作品賞等を受賞した。

監督:藤原智子 16ミリフィルム上映
1981/日本(桜映画社)/34分/カラー

絵を描く子供たち



「教室の子供たち」の姉妹編。東京都江東区のある小学校の春、それぞれの家庭から心づくしの服装で集まってきた子どもたち。彼らにとって初めての図工教育において、当初躊躇しながらも、恐る恐る絵を描くことで表現し始める過程を映す。監督の羽仁進は、岩波映画製作所設立に参加し、教育・記録映画を手がけ、その後ドキュメンタリーの手法を用いた劇映画で高い評価を得た。

監督:羽仁進 16ミリフィルム上映
1956/日本(岩波映画)/38分/パートカラー

通年
上映

アーカイヴ発見

18 土 25 土
17:00 17:00

トゥルンバ祭り Turumba

監督:キドラット・タヒミック
出演:ホームー・アビアド イニゴ・ヴィト



アジア・インディペンデント映画の父と呼ばれているフィリピンの鬼才キドラット・タヒミック(1942-)監督作品の中で、唯一福岡市総合図書館に収蔵されている「トゥルンバ祭り」を約13年ぶりにシネラで上映します。

監督の故郷であるパキルで行われているトゥルンバ祭りを背景にした作品。少年カドウのおばあさんは、家族と一緒に馬や犬のマスコットを作って、祭りの日に販売していた。ある日ドイツのデパートのバイヤーが来て、大量注文をしたため、家族は大忙しになってしまう。一貫して自主制作で映画を作るタヒミック監督の秀作。田舎ののんびりした空気と、手作りのほのぼのとした暖かさを感じる作品。

1983/フィリピン/87分/カラー/日本語字幕付き/16ミリフィルム上映



「おてんとうさまがほしい」について

「暮らしの思想 佐藤真 RETROSPECTIVE」では、特別に「おてんとうさまがほしい」という映画を上映します。本作のフィルムは所在がわからなくなっていました。関係者の方たちは長年探され、新潟で、今回上映する「阿賀に生きる」の製作発起人である旗野秀人さんが保管されていた上映用の16ミリフィルムが見つかりました。すでにデジタル化された上映素材も存在しているのですが、1月11日は、その貴重な16ミリフィルムで上映します。

作品紹介文にも記したとおり「おてんとうさまがほしい」には、「監督」とクレジットされるスタッフはいません。製作・撮影・照明の渡辺生さんは被写体となったトミ子さんの夫で、ナレーションにも渡辺さんの声が吹き込まれています。構成・編集(このクレジットは日本のドキュメンタリー映画では伝統的に、監督に近い立場として使用されています)とクレジットされた佐藤真さんが、渡辺さんが撮影された素材を編集し、一本の作品にまとめました。

当事者といえる渡辺さんが撮影した映像は、連れ添った妻を長年見つめてきた時間の積み重ねと、親密な距離感をひしひしと感じさせてくれます(病が進行していく様子を渡辺さん自身が撮影することの苦悩も少しナレーションで触れています)。本編には、歌っているシーンがとて多いのですが、音楽もたくさん使用して、ほっとするような自然の風景や昔のトミ子さんやふたりの写真も織り交ぜながら、そして過度に一般化も個別化・差別化もせず、カメラがとらえたものを奇をてらわず、見る側にそっと差し出してくれます。

上映時間1時間満たない小品ですが、佐藤真さんの視点によって紡がれた映像が、どのように映画に至るのか、そのヒントが垣間見える作品でもあります。上映後には、佐藤真さんに影響を受けた3人によるトークもあります。ぜひご来場ください。

(学芸員・杉原)



来月のシネラ予告

2/22~ アーカイブ・コレクション Part18
井土紀州 and/or スピリチュアル・ムービーズ
「百年の絶唱」(1998 / 井土紀州監督)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

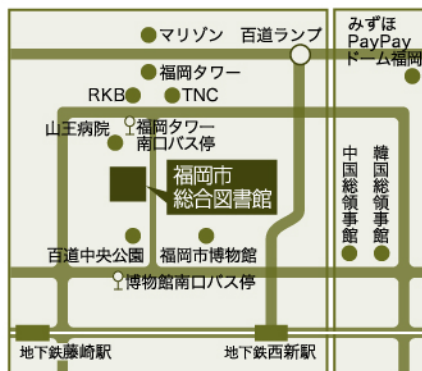
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表) Tel.092(852)0600 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ ホームページ

うえぶシネラ <http://www.cinela.com>



交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

市営地下鉄

西新駅または藤崎駅下車徒歩15分

西鉄バス

●博多駅、天神、西新から福岡タワー南口下車徒歩5分または博物館南口下車徒歩5分
●藤崎から福岡タワー南口下車徒歩5分
○所要時間は交通事情により異なります。バス運行時間、目的地までの所要時間の目安、またお近くのバス停からのご利用については、西鉄お客様センター(電話0570-00-1010)に直接お問い合わせください。

12/28(土)▶1/4(日) 年末・年始の休館日

5日	休映日
6日	休館日
7日	休映日
8日	14:00 エドワード・サイド OUT OF PLACE
9日	11:00 花子 14:00 SELF AND OTHERS
10日	11:00 阿賀に生きる 14:00 阿賀の記憶
11日	11:00 まひるのほし 14:00 エドワード・サイド OUT OF PLACE 17:00 おてんとうさまがほしい +上映後トークイベント
12日	11:00 花子 14:00 阿賀に生きる
13日	11:00 阿賀の記憶 14:00 まひるのほし
14日	休館日
15日	休映日
16日	11:00 阿賀に生きる 14:00 阿賀の記憶
17日	11:00 まひるのほし 14:00 花子
18日	11:00 SELF AND OTHERS 14:00 まひるのほし 17:00 トウリンバ祭り
19日	11:00 花子 14:00 上映後トークイベント+ エドワード・サイド OUT OF PLACE
20日	休館日
21日	休映日
22日	14:00 絵図に偲ぶ江戸のくらし 歌舞伎の立廻り
23日	11:00 アントニー・ガウディー 14:00 ニッポン国古屋敷村
24日	11:00 教室の子供たち 絵を描く子供たち 14:00 アントニー・ガウディー
25日	11:00 アントニー・ガウディー 14:00 教室の子供たち 絵を描く子供たち 17:00 トウリンバ祭り
26日	11:00 絵図に偲ぶ江戸のくらし 歌舞伎の立廻り 14:00 ニッポン国古屋敷村
27日	休館日
28日	休映日
29日	1/29(水)~2/22(土)メキシコ映画の大回顧(仮) ※シネラニュース2-3月号に掲載
30日	
31日	休館日

企画上映/暮らしの思想 佐藤真 RETROSPECTIVE

企画上映/収蔵ドキュメンタリー映画選

通年上映/アーカイヴ発見

助成: NCF 公益財団法人 西日本シティ財団

発行: 映像ホール・シネラ実行委員会
※グリーン購入法に適合している用紙を使用しています